

放課後の居場所を充実させるために

～放課後子ども総合プランコーディネーター等研修～

子どもたちが放課後や土曜日等を安全・安心に過ごすことができるよう、また子どもたちの居場所を確保し、多様な体験や活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体化をめざした取り組み（放課後子ども総合プラン）が行われています。

※青森県内の放課後子ども教室・放課後児童クラブ等の開設状況

放課後子ども教室	25市町村	125教室
放課後児童クラブ	34市町村	301クラブ
児童館・児童センター	18市町村	95館

※「平成27年度放課後対策事業開設状況」青森県教育委員会
青森県総合社会教育センターでは、児童クラブ、子ども教室の支援員や指導員、コーディネーター等関係者の資質向上及び放課後子ども教室推進事業と放課後児童健全育成事業の連携を図るための研修会を毎年行っています。

近年、参加者からは「防災、防犯に関する取り組み」や「気になる子どもへの支援や対応の仕方」、「保護者とのコミュニケーションの取り方」などの研修についての要望が多くありました。

それらを踏まえて、今年度は明治大学文学部教授 **諸富 祥彦 氏**を講師に迎え、津軽地区（青森市）と南部地区（七戸町）の両会場で研修会を行いました。

全国各地で講演をされている諸富



先生のお話を是非聞きたいということで、両会場合わせて280名の参加者が集まりました。

今回の研修会のテーマが、「保護者との信頼関係を築く方法について」ということで、諸富先生は、次のようなことを述べられました。

- (1) **リレーション**（心と心のふれあい、気持ちと気持ちの繋がり）を意識する。
- (2) 指導員や支援員は**人間関係づくりのプロ**で

なければならない。

- (3) **援助希求**（援助を自ら望んで求める関係づくり）に努め、保護者とはこまめに言い合える関係を築くことが大切である。
- (4) **信頼される先生**であるためには、①爽やかかさ、②マメさ、③よく子どもを見ているかどうか、の3点が重要であり、特に③については、こまめに具体的なメモを取ることが必要である。

研修会の最後には、「支援員の方々
が保護者に対して何かをお願いする際には『勇気づけ』という方法が大切で



ある。人間は勇気づけの言葉をかけられると、それに応えようとする気持ちが生まれるようにできている。『あなたならできるよね。』という気持ちを持って、信頼と期待の言葉がけをすることが保護者との関係を築く上で大切である。」というお話をいただきました。

諸富先生のユーモアを交えた語り口に、参加者からは「話がとても面白く、楽しく学ぶことができた。」という声が多数聞かれました。

◆受講者の声

- ・話術が素晴らしく、あっという間に講義に引き込まれていました。（教育活動推進員）
- ・保護者の方々への接し方について、大変気づきがありました。仲間との温かい関係を築くワークは楽しく、大変素晴らしかったです。（放課後子ども教室コーディネーター）
- ・人間関係づくりのプロになって、誰とでもコミュニケーションを図っていきたいと思いました。（放課後児童クラブ指導員）